

# 将来の理事候補を育成

## 日本代協近畿

## 人材育成研修会を開催

日本代協近畿ブロック協議会(小橋信彦会長)は、10月12、13の両日、滋賀県高島市のWEST LAKE HOTEL会議室で、会員41名参加のもと、将来の理事候補を育成するための人材育成研修会を開いた。

初日は午後1時半から開始し、冒頭、小橋会長が、「代協は私たちの一番身近なあり目線にあった、情報供給の場だ。1年に1回、皆様に届く『代協活動の現状と課題』という冊子があるが、分厚いので目次を見て、要所、要所を覚えていただければいいと思う。様々な情報もあり、例えばゴルフ」



研修会のようす

次に、関西近畿ブロック協議会教育委員長(京都代協教育委員長兼任)が、「全募集人約200万人のうち、損害保険トータルプランナーは1万2606人。約200人に1人となっていて、いわばプロ中のプロである資格で、消費者に対して必要な知識をたくさん得ることができ、受講していない人はぜひ、受講してほしい。また5年に1度の更新もまだの場合手続きをするように」と呼びかけた。

続いて、株式会社京都ウエストの藤居弘憲氏が「体制整備の必要性とメリット」と題して講演。

藤居氏は、代理店の現状(代理店に求められる体制整備とは?)、代理店の二分化、保険会社の代理店評価、求められ

る品質とは、代理店の未来と代協の使命などについて話した。「代理店の経営は保険会社に任せず、自律自走していくこと。保険会社も代理店に自律自走を求めているが、我々は年保も売ることができ、ことを忘れず、常に増収増益を意識したい。また手間暇がかかるような代理店はまず敬遠されるだろう」と語った。中でも強調したのは、体制整備の原点は「お客様の苦情ゼロ」。同社では独自のマネージャを専任者が作っている。教育プログラムもオリジナルで、法令遵守(コンプライアンス)などの指導・研修も行って

いる。社員の行動管理は社長が毎日、日報をチェック。その上で「代理店の未来に一番必要なのは、夢の話、ビジョン、お客様に対する使命感など。それをしっかり教育していくこと。それが本当の意味での体制整備。社員の夢、やりたいことを聞き、夢の実現のために何をどうしていくかと誘導していくことが大事だ」と語った。

引き続き、株式会社荏総合保険顧問(京都代協顧問)の辻本完治氏が、「日本損害保険代理業協会と代理店との関係性について」をテーマに講演。辻本氏は代協のメリットを紹介した後、これからの代理店の進むべき道について述べた。

「若者の自動車離れ、自動運転。都会ではカーシェアが進んでいる。自動車保険、自動車保険では今後を勝ち残れない。考えを切り変えて人保、新種に行くのか決めないといけない時期にきている」と決意を見せた。

最後に、消費者はどのような代理店の対応を期待しているか。自然災害の被害にあった契約者に寄り添う事故処理をしているか、と参加者に問うた。「地震や台風の被害があった時にはお客様のところに行っている、これをしないといけない」と決意を見せた。

2日目は午前9時から有限会社教習ファミリィ保険の清水正富氏が「地域に根ざした代理店」について講演。その後、辻本氏、藤居氏、清水氏によるパネルディスカッションでは「保険業界・代理店の今後の役割について」自由に討議し、正午に全日程が終了した。



挨拶する小橋会長



講演する辻本氏

## 代理店および募集人の資質向上を図る

### 神奈川代協

神奈川代協(雨宮豊会長)は10月23日、横浜市のおいおいニッセイ同和損保馬車道ビルで2018年度会員オリエンテーションを開いた。



挨拶する雨宮会長

横濱市のおいおいニッセイ同和損保馬車道ビルで2018年度会員オリエンテーションを開いた。会員オリエンテーションは新入会員や非会員を主たる対象に、「社団法人の社会的な役割の理解」「代協組織と行政、保険会社とのかわりの意味と位置

先立ち雨宮会長が挨拶し、日本代協および神奈川代協の意義や代協加入のメリットなどについて話した。

日本代協および神奈川代協の意義については、「損害保険の普及として一般消費者や保険契約者を保護するために、保険を推進する」というのが本来的な目的である。私たちが活動として目指すべき姿のために必要なテーマを惜しみなく発信し続けていく。いわば情報ボックスといえる。ぜひ、皆さんの明日からの活動の大きなアイテム・武器として使っていただきたい」と呼びかけた。

オリエンテーションでは、日本代協や神奈川代協の組織構成についての説明を経て、各委員会などの概要を紹介。組織委員会では組織拡充や会員増強のための取組みが主たる事業となる。企画環境委員会は代理店賠償の推進や公平な募集環境の整備の推進。教育委員会は損害保険大学課程の運営や日本代協独自の教育

制度の検討といった教育研修事業を担う。広報委員会は広報活動の推進。CSR委員会は社会貢献事業の検討を図る。神奈川代協では独自の社会貢献事業として、盲導犬育成支援(視覚障がい者支援)などを実施している。

当日はこのほか、各種提携事業の説明や6か所にある支部の活動を紹介した。